

事業計画書

事業名	不登校の子供たちと地域の関わりを作る！
場所	沼津市 西椎路 地内
実施予定期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 9 月 30 日
日程	実施項目・作業項目
	<p>様々な要因で学校に登校することの出来ない子供たちが、地域の身近な高齢者等と関わりを持ち、コミュニケーションを図る中で、学校や社会への復帰を目指し、下記の事業を実施する。</p> <p>これらの事業により、他者との繋がりの大切さを知り、人間関係づくりの基礎を築くとともに、ボランティア活動を通じて、地域における自己の役割を認識し、自己肯定感を高めることで子供の成長を促しながら、地域福祉の向上に努める。</p> <p>①農業体験と料理実習</p> <p>地域の老人クラブや近所の農家と連携し、当スクールの畑で農業体験を行う。収穫された野菜を使って料理実習を行い、地域の高齢者にふるまいながら、コミュニケーションを図る。また、「愛鷹そば打ちの会」の協力を得て、そば打ち体験学習を行う。</p> <p>【農業体験】4月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加予定人数：各回とも子供10人、大人3人 ・指導者：2人 ・場所：当スクール畑 <p>【そば打ち体験学習】5月（沼津市立あしたか学園の生徒と一緒に行う。）</p> <p>※沼津市立あしたか学園は、主に知的障害のある児童に対して、その発達段階に応じた処遇を通じ、社会的自立を目指し、必要な援助を行う障害児入所施設。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加予定人数：30名（内、子供10人、あしたか学園20人） ・講師：2人（愛鷹そば打ちの会） ・スタッフ：5人 ・場所：あしたか学園 <p>【料理教室】全3回（4月、7月、9月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加予定人数：各回とも子供10人、高齢者20人 ・講師：1人（老人クラブ） ・スタッフ：3人 ・場所：愛鷹地区センター <p>②高齢者世帯見回り隊（4月、6月、8月）</p> <p>地域で活動している小地域福祉ネットワークと連携し、ボランティアで高齢者世帯見回り隊として、農業体験で収穫した野菜を手土産にスクールの近隣の高齢者世帯を訪問し、高齢者と交流を図るとともに安否確認を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加予定人数：10人 ・訪問世帯数：70世帯 ・訪問回数：延べ210回（1世帯につき2ヶ月に1回訪問）
事業効果	<p>子供たちは地域と繋がりを持つ中で、地域の愛情を知り、他人とのコミュニケーションをとり、協調性を養い、人間関係づくりに自信を持てるようになる。</p> <p>高齢者世帯見回り隊としてのボランティア活動を通じ、他人を思いやる心を大切にするなど、精神的な成長が図られるとともに、将来、健全な社会生活を営むための基礎を築くことができる。</p> <p>また、地域にとっても高齢者の見守りが強化され、高齢者が安心して暮らせる地域づくりに繋がる。</p>

※評価の視点については、募集の手引きを確認してください。

<p>公益性</p>	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載してください。</p> <p>地域の高齢者に料理やちょっとした知恵を教えてもらうことで、世代間交流が図られるとともに、子供たちにとって人間関係づくりへの自信の回復に繋がる。</p> <p>また、ボランティアで高齢者世帯の見回り活動を通して、地域の一員としての役割を担うことで、地域における子供たちの居場所が確保され、社会復帰のきっかけとなるとともに、高齢者の見守りが強化され、地域福祉の向上が図られる。</p>
<p>発展性</p>	<p>※他の住民や地域との連携や、どのような波及効果が見込めるのか記載してください。</p> <p>これまで、スクールの所在地である西椎路自治会の中での活動が主であったが、近隣の老人クラブや小地域福祉ネットワークなど様々な団体と連携を図り、子供たちの視野や活動の範囲を広げていく。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載してください。</p> <p>「愛鷹そば打ちの会」や老人クラブといった身近な高齢者と連携を図ることで、子供たちと高齢者が顔見知りになり、子供たちも高齢者も地域で引きこもる事なくいきいきと生活できるような環境づくりに繋がる。</p>
<p>必要性</p>	<p>※事業を実施する意義や、財政的に支援を要する理由について記載してください。</p> <p>中学生・高校生という人間形成に一番大切な時期に、様々な要因で学校に行けず、一人で悩む子供は数多く存在する。子供たちが閉じこもらず、将来、健全な社会生活をしていくためには、人間関係づくりへの自信を回復する手助けが必要である。地域の人々と交流を持ち、子供たちが地域における自らの役割を認識するための取り組みは、子供たちだけでなく地域にとっても有益な活動である。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載してください。</p> <p>一人一人原因の異なる不登校の子供たちを学校に復帰させるために試行錯誤してきたが、最も効果的なのは地域の人々と交流を持つことであると考えている。</p> <p>特に、高齢者団体と連携することで世代間交流が図られるとともに、高齢者世帯見回り隊としての活動は、子供たちの心の成長を促すだけではなく、高齢者にとっても安心して暮らせる地域づくりへと繋がる。</p>
<p>継続性</p>	<p>※助成事業終了後に、どのように継続的・自立的な活動に取り組んでいくのかについて記載してください。</p> <p>本事業を軌道に乗せ、地域での取り組みを広げるなかで、法人の賛同者（会員）を増やすとともに、スクールに通う子供たちの保護者に対しても活動への理解を求め、月謝をいただくことを検討している。今後は、会費収入や月謝収入を充当することで財源を確保し、継続的に活動を実施していく。</p>